

## 「白山市の新しい公共交通についての基本計画案」 に対するご意見とその取扱いについて

パブリックコメントにお寄せいただいた基本計画案へのご意見、ご要望の概要とそれらに対する市の考え方を公表します。

白山市

### 記

ご意見、ご要望	市の考え方
市の財政が厳しい中でのサービス提供であるので、可能な努力を尽くして財源を確保すべきだ。	計画案に記載のとおり、有効な財源を確保します。 なお、詳細な計画を作成する段階において、コミュニティバスが路線バス撤退地域で市民の足を守るために運行していることを踏まえた費用対効果等の検討を行います。
バス停を観光施設にアクセスしやすい場所、あるいはなるべく近い場所に設けてほしい。	詳細計画において、コミュニティバスの役割を果たせる範囲で配慮します。
計画にある乗り換え拠点については、安全面に配慮願いたい。	詳細計画において、現地の状況を把握した上で、関係者と協議します。
バスの運行時間については、北陸本線や北陸鉄道石川線のダイヤに合わせ運行されるよう、配慮を願いたい。	詳細計画において、乗り継ぎができるよう配慮します。
コミュニティバスは将来的に、松任、美川、鶴来の大きなエリアで路線構成をすべきでないか。	通院など、どうしても必要な路線については運行を想定しています。それ以外の大きなエリアでの広域的移動は路線バスが原則と考えています。

ご意見、ご要望	市の考え方
<p>鳥越の別宮まで運行されている小松バスを吉野工芸の里まで延伸することにより、白山麓と小松との交通の便が良くなる。</p>	<p>計画書中「4路線バスの方向性(2)各地域における路線バス 鳥越地域」に、次の内容を追加します。</p> <p>「また、路線バス・麦口線(別宮～小松駅前)は利用者が少ないため、利用者の増加に向けた取り組みを行います。白山麓と小松方面との利便確保に向けた吉野工芸の里までの延伸については、現路線の利用が改善されるとともに、延伸による効果が明らかに見込めると判断できる場合、延伸に向けた協議をバス事業者と行います。」</p>
<p>白山麓観光、県外への外出、小松市東部への買い物など利便性の向上となることから、小松バスの路線を吉野工芸の里まで延伸する。</p>	<p>前記のとおりです。</p>
<p>民間が行う白山麓と小松空港を結ぶ予約制の交通手段に対して、観光振興の観点から、市の助成を望む。</p>	<p>計画書中「6路線バス、コミュニティバスに共通する方向性(2)観光振興とバス」の末尾に、次の内容を追加します。</p> <p>「運行が行われた場合の支援については、利用目的、利用形態、利用実態等を十分に見極めた上で、他の事例を参考に協議します。」</p>
<p>広域的公共交通を考えると、関係市町と連携を図る必要がある。</p>	<p>計画書中「7関連する公共交通の方向性」に「(3)県及び近隣市町との連携」を新たに設定し、次の内容を追加します。</p> <p>「人口減少時代の到来は、公共交通利用者の動向に大きな影響を及ぼすことが予想されます。長期的に広域的公共交通を維持し、市民の足を守るため、これまで以上に県及び近隣市町との連携を図り、より効果的な公共交通の施策構築と実現に努めます。」</p>

ご意見、ご要望	市の考え方
<p>瀬女と一里野、中宮間のコミュニティバスは、瀬女での路線バスに合わせた運行にしてほしい。併せて、吉野谷診療所へ運行すれば、利用価値が高まる。</p>	<p>詳細計画において、乗り継ぎができるよう配慮します。また、診療所への延伸については、市が診療所利用者のために運行するバス（現在、水、金曜日に運行）を含めて、効率的な運行が出来ないか、検討します。</p>
<p>旧5村の境界にとらわれず、白山麓がひとつの地域として一体感を持った相互交流や豊富な施設の有効利用ができる全く新しいコミュニティバス、具体的には、中島より山側はコミュニティバスに一本化し、海側は路線バスで鶴来駅と連結する。河内、吉野谷、鳥越、尾口は、地域を問わない相互の往来が出来る白山麓周遊バスでの形を要望します。</p>	<p>この計画案の基本的な考えは、「バス交通の主体的役割を路線バスが、補完的役割をコミュニティバスが担う」です。従って、白山麓のバス交通の背骨である瀬女から国道157号を利用する鶴来方面に至る路線と河原山、釜清水を経由する鶴来方面に至る2路線については、路線バスで利用者の足を確保します。旧来の地域を問わず相互往来ができる白山麓周遊バスの提案につきましては、基本的な考えで示したとおりです。なお、コミュニティバスは通院、通学等を目的としますので、一部の路線は、旧来の地域間にとらわれない経路で運行する見込みです。</p>
<p>コミュニティバスは大きい車両でなく小さくする。本数がほしい。また、公共施設や観光名所を回遊する周回路線の設定が望まれ、特に、吉野工芸の里を中心に瀬女から広瀬までを山回りとし里回りの2路線で、8の時運行する。</p>	<p>車体については、計画案のとおり、利用者数に応じた大きさとしします。コミュニティバスは、通院、通勤通学など、目的を明確にして運行しますので、その範囲で地域で利用いただく方の利便に支障を及ぼさないよう観光等に配慮できないか、今後の詳細計画において検討します。なお、大きな周遊路線については想定をしておりませんが、前述のとおり運行目的によっては旧来の地域間にとらわれない運行ルートとなる場合があります。</p>

ご意見、ご要望	市の考え方
鶴来駅とその周辺、吉野工芸の里周辺については、交通のアクセス拠点として再整備や開発を行う必要がある。	今回の見直しは、新市における市民の足を守るために必要な課題を整理しており、ご提案の内容は、まちづくり全般の観点から議論を進めることが適切と考えます。
電車廃止に伴い運行する路線バスについて、コミュニティバスやスクールバスの運行と考え合わせ、力が分散しないよう統廃合を思い切って行う必要がある。	計画書中「4 路線バスの方向性（1）方向性 役割と方向性」に記載のとおり、路線バスとコミュニティバスはそれぞれの役割を果たし、連携強化を図ります。
冬季間の待合は大変であるので、バス停の整備は欠かせない、間伐材を活用し、統一した地域にふさわしいバス停の整備が必要である。	バス停すべてを整備することは場所的にも、財政的にも困難です。乗り換え拠点として未整備な箇所については、将来的に整備が必要と考えます。間伐材を利用したバス停表示ができないか、安全面や維持管理面を含め、詳細計画において検討します。
白山麓において、路線バスやコミュニティバスが便利に利用できる状況になるならば、登下校のスクールバスを残すことに執着する必要はない。また、金沢方面の通学に路線バスを利用しやすいよう配慮してほしい。	スクールバス等については、計画案のとおり、可能な範囲でコミュニティバスに集約し、効率化を図ります。通学の利便性向上については、バス事業者と調整を図ります。
年金生活者や低所得者の増加が予想されるので、低料金で利用できるコミュニティバスを。	計画案のとおり、安価な料金設定を考えています。
以前から、金沢の「ふらっとバス」のように市民に愛され、利用される交通手段が欲しかった。松任地域は、松任駅に行くのにコミュニティバスに乗ると大回りになり、とても時間が掛かるし、大型スーパーに行きたくてもそんなバスがない。松任駅が拠点になるのだから、松任駅への手段がもっと便利であれば良いし、今より小さいバスでも良い。わが町自慢の愛される、沢山利用したいと思うバスにしてください。	計画書中「5 コミュニティバスの方向性（2）各地域におけるコミュニティバス 松任地域」に記載のとおり、松任地域の運行時間帯、運行ルート等につきましては、改善の余地があるので見直します。また、関係者の理解が前提ですが、買い物を目的とした運行ルートについても検討します。一人でも多くの皆様にご利用頂けるよう、「地域に根ざし、愛される公共交通」の実現に努力をします。

ご意見、ご要望	市の考え方
<p>基本計画の目標が抽象過ぎる。 計画の目標は、達成度合を数値化出来るものを掲げるべき。</p>	<p>この基本計画案は、これから1年間を掛けて議論する具体的な計画のためのデッサンと位置付けています。公共交通の確実な継続を願い、利用頂くこと、そのために最も必要な「利用者から愛される」を目標としたものです。 公共交通の見直しは今回がスタートであり、常に利用者の意向や利用実態から、PLAN（計画）DO（実行）CHECK（確認、見直し）ACTION（行動）を繰り返し行い、より良いものを創り上げたいと考えています。</p>
<p>縮小していく本市の予算で現状の利便を確保できるのか。それなりの財政措置が必要だから、はっきりと明記すべきだ。</p>	<p>厳しい地方財政ではありますが、コミュニティバスが福祉の役割を果たすためには、一定規模の予算が必要と考えています。 予算規模については明記しませんでした。旧1市2町5村において支出した平成16年度における公共交通関連費、およそ1億4千万円（コミュニティバス委託費、スクールバス委託料、高齢者タクシー助成、路線バスに対する補助等）が、ひとつの目安と考えています。</p>
<p>路線バスが赤字路線から撤退しないための公的支援は欠かせない。ただ、バス事業者は補助金に頼るのではなく、努力をしっかりと行い、最後に不足分を補助金で補ってもらおう姿勢が必要だ。</p>	<p>ご指摘のとおりです。 今後とも、運輸局、県と連携し、バス事業者に対する指導、監督に努めます。</p>
<p>イメージ図には、鶴来駅が乗り換え拠点となっているので、計画書中「6 路線バス、コミュニティバスに共通する方向性（1）乗り換え拠点の整備」にも明記してください。</p>	<p>計画書中「6 路線バス、コミュニティバスに共通する方向性（1）乗り換え拠点の整備」に「鶴来駅」を追加し、「・・・、JR美川駅、鶴来駅、河内支所、・・・。」とします。</p>

ご意見、ご要望	市の考え方
<p>合併によるスケールメリットを生かし、山間部を含めた白山市全体における公共交通の最適化を期待している。</p>	<p>この基本計画案は、地域特性や旧自治体での取り組み、市議会や公共交通検討委員会での審議、市民アンケート結果を踏まえて、それぞれの地域はもとより市内全域で、便利でより利用していただくため策定しており、詳細計画において具体化します。</p>
<p>今回の市民アンケートに回答のあった3,222件が即、市民の本当の声、姿であると言い切れない。また、市民の満足度や関心度がどの程度なのか、表れていない。</p>	<p>この市民アンケートは、市内全世帯の約3割にあたる1万世帯を対象に行いました。計画案には回答いただいた意見を反映しています。なお、満足度など調査結果（概略）は、パブリックコメントと同時に公表しています。</p>
<p>コミュニティバスを必要とする反面、利用者が少ない逆転現象は問題である。市民への理解と協力に一層の広報活動が求められる。</p>	<p>ご指摘のとおりです。 市民のひとり一人が地域の足を守る応援団になっていただけるよう、努力します。この計画案の目標「地域に根ざし、愛される公共交通」が正に、そのことを目指しています。</p>
<p>公共交通の見直しに際し、議会、市内地域団体（ex 町内会組織）各種階層（ex 長生会、婦人層等）などの意見はどうだったのか、こうした声が反映されていないように見受けられる。</p>	<p>公共交通検討委員会は、町会連合会、老人クラブ連合会、身体障害者団体連合会、地域の皆さん（女性3人を含む）、学識経験者、学校関係者など15人で構成、議論を重ね、市議会の審議を経ました。市民の皆様にはアンケート、パブリックコメントによる参加をいただきました。</p>
<p>アンケート結果から利用者の目的と対象が絞られたように見受けられる。 目的は、通院、買い物、通学で、対象者は、高齢者層、婦人層、高校生を中心とした学生。これらの人が利用しやすい条件を整備し、現状のものを充実することが必要だ。</p>	<p>基本計画案は、ご指摘の方向でまとめています。</p>

ご意見、ご要望	市の考え方
<p>路線バスは中長距離手段として、コミュニティバスは地域内の比較的近距離の手段として使い分け、それぞれが連携しながら現状維持していくことが望ましい。</p>	<p>前述のとおり、基本的な考えを「バス交通の主体的役割を路線バスが、補完的役割をコミュニティバスが担う」としており、ご指摘の方向と考えています。          なお、詳細計画において、利便性向上に向けた見直しを進めます。</p>
<p>コミュニティバスは将来、地域のニーズにきめ細かく対応できるNPOなどに委託する方法が望ましい。</p>	<p>計画書中「7 関連する公共交通の方向性（2）NPOと公共交通」に記載のとおりです。</p>